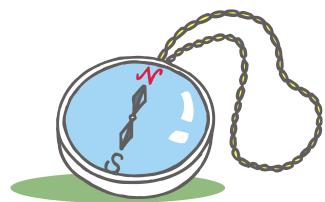


# 羅針盤



第 22 号 令和4年(2022年)10月31日(月)

## ◆ 人間の脳波を止めてしまう言葉

「夢をもつということ」、それは自分自身が大好きなことをやってみたいと願う力が強ければ強いほど現実味をもったものへと変わっていくものかもしれません。そのためには、まずは実際に行動に移すことが必要不可欠なことでしょう。「大好きなこと」って、自分にとってはいったい何なのか。それは自分自身が大きく感動するような出来事からはじまるものではないかと思います。「自分もやってみたい」、「自分でもつくってみたい」、「自分もそんな凄いことができる人になってみたい」といった心動かされるような出来事は、皆さんにとっても大きなエネルギーとなり、自分自身を高めていく良き材料となるはずです。身の回りの様々な出来事に興味・関心を持って、自分の心が動かされるようなことから「夢」を見つけ出してほしいものです。ただ人間はそんな時にもやはり弱い存在ですから、自分にはできない理由を見つけようとしてしまいます。そういったできない理由すら考えさせなくしてしまう最悪の言葉、それが「どうせ無理」だそうです。この言葉は人間の脳波さえも止めてしまうそうで、思考が止まることは楽なことではあるものの、その後は一切何も始まることはないそうです。「どうせ無理」ではなくて、「だったらこうしたらできる」と頭を切り替えて考え出することで、道は大きく拓けていくそうです。「どうせ無理」という言葉は、人間の可能性をも奪ってしまい、正しい判断すらできなくなってしまうことが多いようです。宇宙開発の世界では、「ゼロから1を生み出す」といった大変困難な問題にも挑戦することがたくさんあるそうです。「1を2にしたり3にしたりすること」とは比較にもならないほどの難しさを伴うそうで、これまで培ってきた従来のやり方を維持しようとした段階で物事が一つも前には進んでいかなくなるそうです。過去のやり方にとらわれることなく、時には自分自身の考え方や行動すら否定し、「これで本当にいいのか」と問い合わせて、自分自身と真摯に向き合うことで、初めてゼロから1を生み出す作業がスタートすると言います。私たちも常日頃から、自分自身の行動や発言についても本気で「これでいいのか」と問い合わせることからスタートすることで、「夢」の実現に近づいていくことができるのだと思います。



## ◆ 明日からは霜月（しもつき）

明日からは旧暦で11月を意味する霜月です。まだ霜が降りるには早い季節ですが、旧暦は今私たちが使っている暦からすると1か月ほど遅いため、その名前がつけられたようです。また、旧暦では10月から12月にかけてが「冬」とされているため、11月である「霜月」は、冬の真ん中の月となるため、「仲冬」（ちゅうとう）と呼ばれたりもします。他にも、いよいよ冬支度を始め出して、雪を待つ月ということから「雪待月」（ゆきまちづき）とも呼ばれたりするそうです。神来月（かみきづき）や神帰月（かみきづき）、あるいは、神楽月（かぐらづき）とも呼ばれたり、霜月と書いて「しもつき」ではなく「そうげつ」と読んで、霜と月の光の情緒を表現するような呼び方もあるそうです。

